

第4回運営委員会の協議状況

日 時 平成 16 年 7 月 27 日（火）17:00～21:25

場 所 ソリオホール（3F 会議室 1）

出席者 （委員）松本（誠）、川谷、長峯、岡田、佐々木、中川
岡、酒井、谷田

（県）田中、黒田、西川、松本、前川、山本、前田、西村、竹松、木本

内 容（協議結果）

次の協議結果を、次回流域委員会に報告、提案する。

1 第6回流域委員会の議題調整

（1）今後の進め方（現状と課題を含む。）

総合治水の観点から幅広く検討していく。

現状を把握しながら、治水等の検討については、必要に応じて元に立ち返り見直すこともある。

治水を軸として議論を進めるが、その過程で現状や課題を併せて議論の俎上にのせていく。

治水対策の必要性を明らかにするため、過去の被害状況や、武庫川の安全度の現状等を、次回の流域委員会で河川管理者から説明してもらう。

現状と課題に関する「委員からの質問、資料請求」の件について、個別委員との調整を早急に進め、次回の流域委員会に、その状況を河川管理者から報告する。

（主な意見）

- ・個々の課題を出して、その対応という形で議論を進めると、結果としてまとめにくいものとなる。治水安全度の設定をスタートに議論を進めることが効率的である。治水の議論の中で、現状と課題の話も、利水、環境の話も当然必要となってくる。
- ・前提条件等は、議論をしながら変更して対応することができる。治水対策等の議論の展開で、疑問が生じれば元に立ち返って見直す。
- ・治水安全度から入る場合、現在の安全度がどのような状況なのか。現状認識、現状把握が必要。どこが危険なのかがわからないと、前に進まない。
- ・武庫川に災害が起こらないようにすることが最大の課題である。現状をとらえていないと対策は立てられない。治水安全度の議論に入れば、まず「どこがどのように危ないのか」が具体的に議論されなくてはならない。
- ・過去の災害状況をリストアップし、具体的にイメージできるような資料を作成すべきである。
- ・仮定の話ではなく事実として、過去に水に浸かったところ、その後の工事で安全性が高まったところ等を、地図上に明示し、視覚的にわかりやすいものを作る必要がある。
- ・治水対策案や環境等、課題別にワーキングチームなどの分科会をつくって対応してはどうか。
- ・ワークショップをやっても、また、再度本委員会で決定することになり、二度手間になる。25人の委員が共通認識のもと、最終的に決めていくことが大切。

(2) 広報・住民意見の聴取

広報担当委員（編集委員）の候補（自薦、他薦）は、現在1名しかいないため、再度各委員に呼びかけをする。

リバーミーティングは、流域委員会が主催し、第1回は委員長が司会進行する。リバーミーティングのチラシは、来週（8月第1週）中には配布できるようにする。また、今回のリバーミーティングが「住民と委員との意見交換の場であり、県（河川管理者）への質問、要望の場ではない」という趣旨を伝える。

今回、リバーミーティングのチラシの原稿最終確認は、委員長、編集予定委員が行う。

ニュースレターは、遅くとも、リバーミーティング（9月4日）までには配布することとし、リバーミーティング、ニュースレター及びリーフレットの詳細については、次回運営委員会で再度協議する。

(主な意見)

- ・ 広報担当委員の申し出（自薦、他薦）が少ない。もう少し募集する必要がある。
- ・ リバーミーティングは、河川管理者への質問、要望が中心になってしまい、コントロールできなくなってしまうのではないか。
- ・ リバーミーティングは、流域住民と流域委員が意見を交換する場である。河川管理者への質問や要望の場にならないよう注意すべきである。
- ・ リバーミーティングは、テーマを設けた方が住民も具体的なイメージが湧き、参加しやすくなるのではないか。

2 その他

第5回運営委員会は、8月17日（火）13：30（場所未定）から行う。